

研究振興局長決定
平成16年6月28日
改正 平成17年5月 1日
改正 平成18年5月10日
改正 平成19年5月10日
改正 平成20年5月 7日
改正 平成21年4月28日
改正 平成22年5月13日

科学技術分野の 文部科学大臣表彰顕彰要領

全版

目 次

1. 科学技術分野の文部科学大臣表彰	1
2. 科学技術分野の文部科学大臣表彰各賞の概要	3
(1) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞	3
(2) 文部科学大臣表彰科学技術賞	4
申請書類様式等	10
(3) 文部科学大臣表彰若手科学者賞	40
申請書類様式等	43
(4) 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞	55
申請書類様式等	57
(5) 文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞	61
申請書類様式等	62
3. 科学技術分野の文部科学大臣表彰の事務の流れ	65

1. 科学技術分野の文部科学大臣表彰

1. 目的

この表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする。

2. 表彰対象について

(1) 科学技術分野の文部科学大臣表彰の表彰対象は、「科学技術分野の文部科学大臣表彰規程（平成16年6月8日文部科学大臣決定）」に定められた要件に該当するものとする。（2頁参照）

(2) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞については、社会経済の発展、国民生活の向上等において、特に優れた科学技術上の画期的成果があった場合に、文部科学省に設置された科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会（以下、「審査委員会」という。）において随時、選出するものとし、本賞候補の公募は行わない。

また、文部科学大臣表彰若手科学者賞については、同一人の重複した表彰は行わない。

(3) 文部科学大臣表彰科学技術賞及び文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞については、同一の業績により、すでに国家栄典（叙勲、褒章）及び文部科学大臣表彰科学技術賞（科学技術功労者等の文部科学大臣賞を含む）を受けているものがある場合は、表彰対象としない。

(4) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞、文部科学大臣表彰科学技術賞及び文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞について、表彰対象となる成果は1件のみとする。

(5) 文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門を除く。）の対象となるグループとは、原則として5名以内（個人）とし、科学技術賞研究部門の対象となるグループとは、原則として3名以内（個人）とする。また、文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞の対象となるグループとは、原則として3名以内（個人）とする。

(6) 表彰対象となる成果について、他機関の表彰等の客観的評価を受けている場合は、審査の参考とする。

(7) 文部科学大臣表彰を受賞するにふさわしい環境であること。

3. 候補について

(1) 文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞、創意工夫功労者賞および創意工夫育成功労学校賞の候補は、文部科学省研究振興局長が定める推薦機関により推薦されたものに加え、審査委員会の選出によるものとする。

(2) 推薦に際しては、指定された申請書類を所定の様式に従って作成し、提出すること。

(3) 申請書類等について、本要領の記載事項ならびに所定の様式を満足しない場合又は、不実、虚偽の記載の事実等があった場合は、審査の対象から除外する。

4. 審査について

(1) 審査委員会は文部科学省の調査結果等を参考として審査・選考を行う。

(2) 文部科学省は、候補の業績等について必要に応じて調査、ヒアリング等を行う。

(3) 審査委員会における審査・選考にあたっては、参考となる調査統計等の客観的資料の提出を求める場合がある。

(4) 複数の機関による成果については、その関係を明示・実証するものの提出を求めることがある。

5. 被表彰者の決定について

被表彰者は、審査委員会における審議結果を尊重して、文部科学大臣が決定する。

6. 表彰について

表彰については、原則として科学技術週間中（4月）に表彰状及び副賞を授与してこれを行う。

ただし、文部科学大臣表彰科学技術特別賞については、随時表彰を行う。

科学技術分野の文部科学大臣表彰一覧

表彰の種類	表彰対象等	表彰式等	推薦時期
科学技術特別賞	イ 科学技術に関する研究開発において特に優れた成果を収めた個人又はグループ ロ 科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動を行い、又は顕著な研究業績を挙げた個人又はグループ	随時	
科学技術賞	(年140件/年)		
①開発部門	我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人 (年30件/年)	科学技術週間中 (4月)	7月末頃
②研究部門	我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ (年40件/年)	〃	〃
③科学技術振興部門	大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出、地域における産学官連携、研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ (年10件/年)	〃	〃
④技術部門	中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人 (年40件/年)	〃	〃
⑤理解増進部門	青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ (年20件/年)	〃	〃
若手科学者賞	萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた若手研究者個人 (年100人/年)	〃	〃
創意工夫功労者賞	優れた創意工夫によって職域における科学技術の進歩又は改良に寄与した個人又はグループ (年1000人/年)	科学技術週間中 (4月)に各推薦機関から伝達	9月末頃
創意工夫育成功労学校賞	小・中学生の科学技術に関する創意工夫の育成に顕著な成果を収めた学校 (年40校/年)	〃	〃

2. 科学技術分野の文部科学大臣表彰各賞の概要

(1) 文部科学大臣表彰科学技術特別賞

表彰対象

1. 文部科学大臣表彰科学技術特別賞は、社会・経済の発展、国民生活の向上等において、特に優れた科学技術上の画期的成果に対し、時宜を失することなく早期に顕彰するとともに、その成果に対する功績が顕著な者又はグループを表彰する。
2. 文部科学大臣表彰科学技術特別賞は、次の要件の一に該当する成果を対象とする。
 - イ 科学技術に関する研究開発において特に優れた成果を収めた個人又はグループ
 - ロ 科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動を行い、又は顕著な研究業績を挙げた個人又はグループ

〈解説〉

- * 1 「科学技術に関する研究開発において特に優れた成果」とは
 - ・我が国の科学技術水準を内外に知らしめる世界的にも注目される顕著な成果
 - ・科学技術あるいは経済社会の発展・向上に大きく貢献した世界的にも顕著な成果
- * 2 「科学技術に関する国民の関心及び理解の増進に著しく寄与する活動」「顕著な業績」とは
 - ・我が国の科学技術の発展・向上に寄与するとともに、広く国民に周知され、国民の科学技術の必要性に対する意識の向上に貢献した顕著な成果

(2) 文部科学大臣表彰科学技術賞

表彰対象

1. 文部科学大臣表彰科学技術賞は、我が国の社会・経済、国民生活の発展向上等における最近の科学技術上の成果を顕彰するとともに、その成果に対する功績が顕著な者、あるいはグループを表彰する。
2. 文部科学大臣表彰科学技術賞は、以下の各部門の要件に該当する成果を対象とする。
 - ①開発部門
我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
 - ②研究部門
我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明を行った個人又はグループ
 - ③科学技術振興部門
大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出、地域における産学官連携、研究開発の社会的必要性に関する研究等の分野において、科学技術の振興に寄与する活動を行い、顕著な功績があったと認められる個人又はグループ
ただし、「大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出、地域における産学官連携」については、産学官連携功労者表彰が終了する年度の翌年度から表彰を行う
 - ④技術部門
中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人
 - ⑤理解増進部門
青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与し、又は地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与する活動を行った個人又はグループ

〈解説〉

①開発部門

現在、実際に利活用され、我が国の社会・経済、国民生活の発展向上等に貢献している画期的な研究開発成果に対する表彰。

- * 1 「我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているもの」とは
 - ・実績からみて我が国の社会・経済、国民生活の発展向上等に最近顕著な成果を挙げている研究開発成果であり、かつ、今後も引き続き大きな効果が期待できる画期的な研究開発成果
- * 2 「育成」とは
 - ・上記* 1に相当する研究開発成果について、自らも参画する等の直接的貢献を有するとともに、その技術の完成、実施に対し技術的に適切な指導を行う等の育成
- * 3 「実際に利活用され」とは、開発成果に係る売上実績が過去3年間あること

②研究部門

科学技術分野において顕著な効果を挙げる可能性の高い最近の独創的な研究開発成果に対する表彰。

- * 1 「我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は発明」とは
 - ・将来、科学技術あるいは社会・経済の進歩・発展に貢献する可能性の高いことが客観的に評価されている、独創性に優れた最近の画期的な研究開発成果。ただし、確立された成果であること。

- ・将来、科学技術の発展に貢献する可能性の高いことが客観的に評価されている、独創性に優れた最近の学術研究の成果。ただし、確立された成果であること。

③科学技術振興部門

我が国の社会・経済の発展・向上に寄与する、科学技術分野の発展を促す顕著な成果に対する表彰。

- * 1 「大学等の研究開発成果を活用したベンチャー創出、地域における産学官連携」とは
 - ・我が国の社会・経済の発展・向上に寄与する、研究開発型ベンチャーや産学官連携事業等の科学技術分野の成果の活用を促進する等の最近の業績
- * 2 「研究開発の社会的必要性に関する研究」とは
 - ・我が国の社会・経済の発展・向上における、科学技術分野の発展がもたらす成果についての評価・解析等の最近の業績

④技術部門

中小企業・地場産業等において、実際に利活用され、科学技術の開発・育成に顕著な功績を挙げた成果に対する表彰。

- * 1 「中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術」とは
 - ・地域や業種等の各分野に特化した技術であって、実際に利活用され、地域経済等の発展に貢献した顕著な成果
- * 2 「育成」とは
 - ・上記* 1に相当する技術開発成果について、自らも参画する等の直接的貢献を有するとともに、その技術の完成、実施に対し技術的に適切な指導を行う等の育成
- * 3 「実際に利活用され」とは、技術開発成果に係る売上実績が過去3年間あること

⑤理解増進部門

科学技術に対する理解の増進、普及啓発等に関して顕著な業績を挙げた成果に対する表彰。

- * 1 「青少年をはじめ広く国民の科学技術に関する関心及び理解の増進等に寄与」とは
 - ・科学技術に対する理解の増進もしくは普及啓発等を目的とする団体または施設等の活動を通じて、広く科学技術に対する国民の関心を高めた活動等
 - ・科学技術に対する理解の増進もしくは普及啓発等を目的とする団体または施設等の設立に尽力し、あるいは活動基盤の強化に貢献した等の活動等
 - ・上記の団体や施設等の活動としてではないが、科学技術に対する理解を増進するための環境の醸成に貢献した活動等
 - ・上記の団体や施設等の活動としてではないが、文筆、出版、映像、講演、科学教育活動等の活動を通じて、広く国民に対する科学技術の普及啓発、理解増進に貢献した活動等
- * 2 「地域において科学技術に関する知識の普及啓発等に寄与」とは
 - ・講演や科学教育活動等を通じて、地域に特化した形での科学技術の普及啓発、理解増進活動を行うことによって、科学技術の振興に貢献した活動等
- * 3 上記* 1、* 2のいずれかの活動等について、少なくとも過去3年間の実績があること。

3. 推薦機関において、上記部門①～⑤のいずれに該当するか判断のつかない科学技術の振興について顕著な業績を挙げた者、あるいはグループがあった場合には、「その他」部門の候補として推薦してもよい。その際には、文部科学省に設置された有識者からなる審査委員会において適宜判断のうえ、審査・選考を行うものとする。

○申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰科学技術賞各部門への申請に際しては、以下の書類を所定の様式に従い作成すること。

ただし、「その他」部門に係る申請書類等の作成にあたっては、開発部門と同様の様式を用いること。

なお、書類は紙媒体で提出する他、(1)の候補調査書については電子媒体(DVD又はCD)を提出すること。

(1) 候補調査書(2部)

〈対応する様式〉

- ①開発部門、②研究部門、④技術部門 ……様式1(10～17頁)
- ③科学技術振興部門 ……様式2(18～28頁)
- ⑤理解増進部門 ……様式3(29～33頁)

(2) 候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」(2部)

様式4(34頁)に従い作成すること。

本資料には、成立特許・実用新案のみ記載可能とし申請中のものは記載しないこと。なお、記載したすべての特許・実用新案の写を添付すること。(1部・両面印刷可)

※①開発部門、②研究部門、③科学技術振興部門及び④技術部門の場合に提出すること。

(3) 候補調査書付属資料「研究論文一覧」(2部)

様式5(35頁)に従い作成すること。

本資料には、査読付き論文のみ記載可能。なお、記載したすべての論文の写を添付すること。(1部・両面印刷可)

※①開発部門、②研究部門及び④技術部門の場合に提出すること。

(4) 候補調査書付属資料「研究論文・著書一覧」(2部)

様式6(36頁)に従い作成すること。

本資料には、査読付き論文のみ記載可能。なお、本資料に記載したすべての論文・著書の写を添付すること。(1部・両面印刷可)

※③科学技術振興部門及び⑤理解増進部門の場合に提出すること。

(5) 候補調査書付属資料「講演一覧」(2部)

様式7(37頁)に従い作成すること。

※③科学技術振興部門及び⑤理解増進部門の場合に提出すること。

(6) 候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」(2部)

様式8(38頁)に従い作成すること。

本資料に記載した新聞記事等のうち、表彰対象の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事の写(10件以内)を添付すること。(1部・両面印刷不可)

(7) 履歴書(2部)

様式9(39頁)に従い作成すること。

(8) 戸籍抄本(1部)

ただし、外国籍の受賞候補者は、推薦締切日の2ヶ月以内に発行された住民票でも良い。

○申請書類提出要領

文部科学大臣表彰科学技術賞各部門への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類は、以下の要領に従い提出すること。

(1) 資料の順番

(ア) 開発部門、研究部門、技術部門へ申請する場合

(A) 管理用書類（1部）

各種書類を1部ずつ①～⑧の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式1）（左肩クリップ止め）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式4）（左肩クリップ止め）
- ③候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式5）（左肩クリップ止め）
- ④候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式8）（左肩クリップ止め）
- ⑤履歴書（様式9）（左肩クリップ止め）
- ⑥戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）
※B5サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。
※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ止めとすること。
- ⑦その他資料
 - ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
 - ・研究部門に関して、申請業績が実利用されていること、あるいは実利用された場合の予測等を示す客観的データ
 - ・受賞関係資料（表彰概要、表彰状の写、受賞理由及び業績内容のわかる資料）
- ⑧電子媒体 ①の「候補調査書（様式1）」の内容を収めた電子媒体を提出すること。

(B) 審査用書類（計1部）

各種書類を1部ずつ①～⑧の順番に並べ、1セットとすること。

- ①候補調査書（様式1）（左肩ホチキス止め）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式4）（左肩ホチキス止め）
- ③「特許・実用新案一覧」に記載の特許・実用新案の写
（特許もしくは実用新案1件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。）
- ④候補調査書付属資料「研究論文一覧」（様式5）（左肩ホチキス止め）
- ⑤「研究論文一覧」に記載の論文の写
（論文1件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。）
- ⑥候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式8）（左肩ホチキス止め）
- ⑦「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（A4版の大きさに統一し左肩ホチキス止め）
- ⑧履歴書（様式9）（左肩ホチキス止め）

(イ) 科学技術振興部門へ申請する場合

(A) 管理用書類（１部）

各種書類を１部ずつ①～⑨の順番に並べ、１セットとすること。

- ①候補調査書（様式２）（左肩クリップ止め）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式４）（左肩クリップ止め）
- ③候補調査書付属資料「研究論文・著書一覧」（様式６）（左肩クリップ止め）
- ④候補調査書付属資料「講演一覧」（様式７）（左肩クリップ止め）
- ⑤候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式８）（左肩クリップ止め）
- ⑥履歴書（様式９）（左肩クリップ止め）
- ⑦戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）
※B5サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。
※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ止めとすること。
- ⑧その他資料
 - ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
 - ・候補案件の成果に関する実績について、申請業績が実利用されていること、あるいは実利用された場合の予測等を示す客観的データ
 - ・受賞関係資料（表彰概要、表彰状の写、受賞理由及び業績内容のわかる資料）
- ⑨電子媒体 ①の「候補調査書（様式２）」の内容を収めた電子媒体を提出すること。

(B) 審査用書類（１部）

各種書類を１部ずつ ①～⑨の順番に並べ、１セットとすること。

- ①候補調査書（様式２）（左肩ホチキス止め）
- ②候補調査書付属資料「特許・実用新案一覧」（様式４）（左肩ホチキス止め）
- ③「特許・実用新案一覧」に記載の特許・実用新案の写
（特許もしくは実用新案１件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。）
- ④候補調査書付属資料「研究論文・著書一覧」（様式６）（左肩ホチキス止め）
- ⑤「研究論文・著書一覧」に記載の論文・著書の写
（論文については該当する全頁の写を、著書については表紙及びまえがきの写をそれぞれ１件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。）
- ⑥候補調査書付属資料「講演一覧」（様式７）
- ⑦候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式８）（左肩ホチキス止め）
- ⑧「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（A4版の大きさに統一し左肩ホチキス止め）
- ⑨履歴書（様式９）（左肩ホチキス止め）

(ウ) 理解増進部門へ申請する場合

(A) 管理用書類（１部）

各種書類を１部ずつ①～⑧の順番に並べ、１セットとすること。

- ①候補調査書（様式３）（左肩クリップ止め）
- ②候補調査書付属資料「研究論文・著書一覧」（様式６）（左肩クリップ止め）
- ③候補調査書付属資料「講演一覧」（様式７）（左肩クリップ止め）
- ④候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式８）（左肩クリップ止め）
- ⑤履歴書（様式９）（左肩クリップ止め）
- ⑥戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）
※B5サイズの戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。

※候補が複数名の場合、履歴書及び戸籍抄本（外国籍の受賞候補者は住民票）は、それぞれ筆頭者から順に並べ、左肩クリップ止めとすること。

⑦その他資料

- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）（大学等の公的機関の場合には不要）
- ・受賞関係資料（表彰概要、表彰状の写、受賞理由及び業績内容のわかる資料）

⑧電子媒体 ①の「候補調査書（様式3）」の内容を収めた電子媒体を提出すること。

(B) 審査用書類（1部）

各種書類を1部ずつ①～⑦の順番に並べ、1セットとすること。

①候補調査書（様式3）（左肩ホチキス止め）

②候補調査書付属資料「研究論文・著書一覧」（様式6）（左肩ホチキス止め）

③「研究論文・著書一覧」に記載の論文・著書の写

（論文については該当する全頁の写を、著書については表紙及びまえがきの写をそれぞれ1件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。）

④候補調査書付属資料「講演一覧」（様式7）

⑤候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（様式8）（左肩ホチキス止め）

⑥「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写（A4版の大きさに統一し左肩ホチキス止め）

⑦履歴書（様式9）（左肩ホチキス止め）

(2) 資料の取りまとめ

- ・上記（1）により作成した資料を、1セットずつ封筒に入れること。
- ・封筒の右肩には、それぞれ内容物が分かるよう、以下を記載すること。
 - ①申請する部門の名称
 - ②候補者氏名（候補が複数の場合には、筆頭者氏名）
 - ③推薦機関名
 - ④管理用資料、審査用資料の別
 - 例）管理用資料の場合 …「管」と記載
 - 審査用資料の場合 …「審」と記載
- ・資料1セットが、封筒1枚にまとめられない場合には分けて入れること。その際には、その旨が分かるよう封筒右肩に記載すること。
 - 例）審査用資料が封筒1枚にまとめられず、封筒2枚に分かれる場合。

科学技術賞	□□部門
候補者氏名	○○○○
推薦機関名	△△△△
「審」	1 / 2

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、7枚以内にまとめること。（両面印刷不可）

様式 1

科学技術賞 { 開発
研究
技術 } 部門 候補調査書

1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、開発部門および技術部門の場合には「開発」もしくは「開発育成」、研究部門の場合には「研究」とすること。（例： 開発部門、技術部門の場合「〇〇〇の開発」、研究部門の場合「〇〇〇の研究」）
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、原則として業績名に句読点等（（ ）「 」・、。）は使用しないこと。

2. 受賞候補

(筆頭者) <small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	(株) 〇〇工業 〇〇開発部長
候補者の現住所	〒 ー 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 教授
候補者の現住所	〒 ー 〇〇県〇〇市〇〇町 1-2
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (女)
所属・役職	(独) 〇〇機構 主任研究員
候補者の現住所	〒 ー 〇〇県〇〇市〇〇町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後に他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、原則5名（研究部門については3名）以内とする。
- ・候補者は、本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名は、原則として戸籍と同一の文字を使用すること。必ずふりがなを付すこと。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。
- ・現住所は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・株式会社は（株）、財団法人は（財）、社団法人は（社）、独立行政法人は（独）とし、役職は正確に記載すること。

3. 会社概要

候補者氏名	会社名称	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	年間売上げ (百万円)	主要製品名 (売上げ比率)
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	〇〇大学	—		—	—
〇〇〇〇	(独) 〇〇機構	—		—	—

- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、すべての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること（大学等の公的機関を除く）。
- ・大学等の公的機関の場合には、「会社名称」および「従業員数」（事務局職員と研究者等の合計数）欄の記載のみで可。

4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞】

表彰年月日	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
平成〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇、△△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、すべて記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年月日、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、すべての受賞者氏名を記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載したすべての受賞について、表彰状の写ならびに、受賞理由および業績内容のわかる資料（表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）の写を添付すること。

5. 候補案件の成果に関する実績（3カ年度）

製品名（ ）						
年 度	年度	年度	年度	市場占有率の 算出根拠	主な用途・利用方法	輸出先
生産数量				同種製品の全国年間生産数量に占める当該技術開発による生産数量の割合		
金 額						
市場占有率						
輸 出 額						

- ・前年度までの3カ年度の実績を記載する。（開発部門及び技術部門については必須。）
- ・市場占有率にあたっては、できる限り公正なデータを使用するとともに、「市場占有率の算出根拠」欄に分子／分母の対象を明確に記載すること。また、分母の客観性について具体的に説明すること。（例えば、「工業会の統計資料」等）（但し、研究部門に関して、実績が市場占有率等で明確に示すことができない場合には、実利用されていること、あるいは実利用された場合の予測等を示す客観的データについて箇条書きで記載するとともに、そのデータを添付すること。）

8-1. 業績の概要

開発時期 : 昭和〇〇年〇〇月～平成〇〇年〇〇月 (計〇〇年〇〇月)
実利用化時期 : 平成〇〇年〇〇月

(1) 当該分野における開発(研究)の背景

本件技術(研究)の必要性等の科学技術的背景を含めて記載。

・
・
・

(2) 候補案件の成果の内容

①本件技術(研究)の内容

本件技術(研究)の内容が具体的に理解できるように記載。

・
・
・

②本件技術(研究)の特徴、従来技術との相違等

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造に～を採用することで、～をなくし…とした。)

・
・
・

(3) 従来技術の内容

①従来技術の内容

従来技術の内容が具体的に理解できるように記載。

・
・
・

②従来技術の問題点

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造を～部に有しているため、～が生じ、～の問題が生じていた。)

・
・
・

(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来技術と比較のうえ、本件技術(研究)による社会的・技術的効果、他の技術分野への貢献、ならびに本件技術(研究)の特徴(優秀性、経済性、作業性等)を記載すること。

・
・
・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章はすべて簡条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。
- ・研究部門については、各項目にかっこ書きで示すように「開発」・「技術」を「研究」と読み替えて作成すること。

8-2. 候補案件の成果の内容

本調査書8-1(2)候補案件の成果の内容(①本件技術(研究)の内容、②本件技術(研究)の特徴、従来技術との相違等)について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可とする。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

8-3. 従来技術の内容

本調査書8-1(3)従来技術の内容(①従来技術の内容、②従来技術の問題点)について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

8-4. 同一の業績に対して複数の候補者がある場合、各候補者の寄与度

候補案件において、各候補者がどのような立場、どのような役割を担い、候補案件に寄与したか説明すること。

(必要な場合は、開発(研究)推進体制図を記載すること。)

(1) 氏名

・所属・役職

.....の開発(研究)において、.....として、.....を担当し、.....した。

この成果は.....本開発(研究)において、.....に貢献した。

(2) 氏名

・所属・役職

.....の開発(研究)において、.....として、.....を担当し、.....した。

この成果は.....本開発(研究)において、.....に貢献した。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本件業績に対する貢献度の高い順に記載する。
- ・研究部門については、各項目にかっこ書きで示すように「開発」を「研究」と読み替えて作成すること。
- ・所属・役職は、2. 受賞候補の欄に記載したものと同一ものを記載すること。
- ・候補案件がグループでない場合は、該当なしと記載する。

9. 候補案件の成果に関する主要特許・実用新案・論文（2件以内）

- ①登録番号・タイトル : 特許第〇〇〇〇〇〇号 「〇〇〇〇装置」
②出願（登録）年月日 : 昭和〇〇年〇〇月〇〇日出願（昭和〇〇年〇〇月〇〇日登録）、
③当該特許の概要

- ・
- ・
- ・

- ①論文名 : 「〇〇〇〇〇〇の研究」
②掲載誌名・巻号・頁・発表年月 : 〇〇学会誌 vol.〇 p〇～〇、〇年〇月発表
③当該論文の概要

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件の成果に関する主要な特許・実用新案（成立特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、出願年月日（登録年月日）を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について箇条書きで記載すること。登録されていないもの（権利を取得するために手続き中のものを含む。）は記載しないこと。
- ・候補案件の成果に関する主要な論文（査読付き論文）の論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月（西暦）を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること。
- ・主要特許・論文あわせて2件以内で記載すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、6枚以内にまとめること。（両面印刷不可）

様式 2

科学技術賞 科学技術振興部門 候補調査書

1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、「技術の振興」とすること。（例：「〇〇〇の技術の振興」）
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、原則として業績名に句読点等（（ ）「 」・、。）は使用しないこと。

2. 受賞候補

(筆頭者) <small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	(株) 〇〇工業 〇〇開発部長
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 教授
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-2
<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (女)
所属・役職	(独) 〇〇機構 主任研究員
候補者の現住所	〒 — 〇〇県〇〇市〇〇町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、原則5名以内とする。
- ・候補者は、本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名は、原則として戸籍と同一の文字を使用すること。必ずふりがなを付すこと。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・現住所は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・株式会社は(株)、財団法人は(財)、社団法人は(社)、独立行政法人は(独)とし、役職は正確に記載すること。

3. 会社概要

候補者氏名	会社名称	資本金 (百万円)	従業員数 (人)	年間売上げ (百万円)	主要製品名 (売上げ比率)
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	〇〇大学	—		—	—
〇〇〇〇	(独) 〇〇機構	—		—	—

- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、すべての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・会社の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること（大学等の公的機関を除く）。
- ・大学等の公的機関の場合には、「会社名称」および「従業員数」（事務局職員と研究者等の合計数）欄の記載のみで可。

4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞】

表彰年月日	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
平成〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇、△△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、すべて記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年月日、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、すべての受賞者氏名を記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載したすべての受賞について、表彰状の写ならびに、受賞理由および業績内容のわかる資料（表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）の写を添付すること。

5. 候補案件の成果に関する実績（3カ年度）

製品名（ ）						
年 度	年度	年度	年度	市場占有率の 算出根拠	主な用途・利用方法	輸出先
生産数量				同種製品の全国年間生産数量に占める当該技術開発による生産数量の割合		
金 額						
市場占有率						
輸 出 額						

- ・前年度までの3カ年度の実績を記載する。
- ・市場占有率にあたっては、できる限り公正なデータを使用するとともに、「市場占有率の算出根拠」欄に分子／分母の対象を明確に記載すること。また、分母の客観性について具体的に説明すること。（例えば、「工業会の統計資料」等）
（但し、実績が市場占有率等で明確に示すことができない場合には、本件成果が実利用されていること、あるいは実用された場合の予測等を示す客観的データについて箇条書きで記載するとともに、そのデータを添付すること。）

本項8の記載内容については、候補案件の成果の内容に照らし、以下の3種から1つを選択して記載すること。(それぞれについて様式が異なるので注意すること。)

- 【a. 技術開発に関係する場合】、
- 【b. ベンチャー、産学官連携の場合】
- 【c. 科学技術の必要性・効果の解析の場合】

8-1 a. 業績の概要【a. 技術開発に関係する場合】

開発時期 : 昭和〇〇年〇〇月～平成〇〇年〇〇月 (計〇〇年〇〇月)

実利用化時期 : 平成〇〇年〇〇月

(1) 当該分野における背景

本件技術の必要性等の科学技術的背景を含めて記載。

- ・
- ・

(2) 候補案件の成果の内容

①本件技術の内容

本件技術の内容が具体的に理解できるように記載。

- ・
- ・

②本件技術の特徴、従来技術との相違等

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造に～を採用することで、～をなくし…とした。)

- ・
- ・

(3) 従来技術の内容

①従来技術の内容

従来技術の内容が具体的に理解できるように記載。

- ・
- ・

②従来技術の問題点

簡潔明瞭に記載。(例: …の構造を～部に有しているため、～が生じ、～の問題が生じていた。)

- ・
- ・

(4) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来技術と比較のうえ、本件技術による社会的・技術的效果、他の技術分野への貢献、ならびに本件技術の特徴(優秀性、経済性、作業性等)を記載すること。

- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章はすべて簡条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

8-2 a. 候補案件の成果の内容【a. 技術開発に関係する場合】

本調査書8-1 a (2) 候補案件の成果の内容 (①本件技術の内容、②本件技術の特徴、従来技術との相違等) について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

8-3 a. 従来技術の内容【a. 技術開発に関係する場合】

本調査書8-1 a (3) 従来技術の内容 (①従来技術の内容、②従来技術の問題点) について、図表等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A 4 縦用紙 1 枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

8-1 b. 業績の概要【b. ベンチャー、産学官連携の場合】

(1) 当該分野における背景

当該分野における従来の状況を含め、本件業績の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

(2) 候補案件の成果の内容

自らの成果を基盤として起業、大学・公的機関との橋渡し等

- ・
- ・
- ・

(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来の状況と比較のうえ、新たな産業・雇用の創設、社会経済に対する貢献等を記載すること。

- ・
- ・
- ・

- ・ 本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・ 文章はすべて箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・ 候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

8-2 b. 候補案件の成果の内容【b. ベンチャー、産学官連携の場合】

本調査書8-1 b (2) 候補案件の成果の内容、(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)

8-1c. 業績の概要【c. 科学技術の必要性・効果の解析の場合】

(1) 当該分野における背景

当該分野における従来の状況を含め、本件業績の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

(2) 候補案件の成果の内容

候補が行った総合的あるいは特定の科学技術のもたらす経済社会的効果予測等がもたらした効果（社会的、技術的な影響、効果等）を記載。

- ・
- ・
- ・

(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

従来の状況と比較のうえ、新たな産業・雇用の創設、社会経済に対する貢献等を記載すること。

- ・
- ・
- ・

- ・ 本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・ 文章はすべて箇条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。（図表等の使用は不可。）
- ・ 候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

8-2c. 候補案件の成果の内容【c. 科学技術の必要性・効果の解析の場合】

本調査書8-1c(2) 候補案件の成果の内容、(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)

9. 候補案件の成果に関する主要特許・実用新案・論文（2件以内）

- ①登録番号・タイトル : 特許第〇〇〇〇〇〇号 「〇〇〇〇装置」
②出願（登録）年月日 : 昭和〇〇年〇〇月〇〇日出願（昭和〇〇年〇〇月〇〇日登録）、
③当該特許の概要

- ・
- ・
- ・

- ①論文名 : 「〇〇〇〇〇〇の研究」
②掲載誌名・巻号・頁・発表年月 : 〇〇学会誌 vol.〇 p〇〇~〇、〇年〇月発表
③当該論文の概要

- ・
- ・
- ・

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件の成果に関する主要な特許・実用新案（成立特許・実用新案のみ）の登録番号、タイトル、出願年月日（登録年月日）を記載するとともに、当該特許・実用新案の概要について箇条書きで記載すること。登録されていないもの（権利を取得するために手続き中のものを含む。）は記載しないこと。
- ・候補案件の成果に関する主要な論文（査読付き論文）の論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月（西暦）を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること。
- ・主要特許・論文あわせて2件以内で記載すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、4枚以内にまとめること。（両面印刷不可）

様式 3

科学技術賞 理解増進部門 候補調査書

1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件の成果を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名の語尾は、「理解増進」もしくは「普及啓発」とすること。（例：「〇〇〇の理解増進」）
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、原則として業績名に句読点等（（ ）「 」・、）は使用しないこと。

2. 受賞候補

(筆頭者)	
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	(株) 〇〇工業 〇〇開発部長
候補者の現住所	〒 - 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (男)
所属・役職	〇〇大学 〇〇学部 教授
候補者の現住所	〒 - 〇〇県〇〇市〇〇町 1-2
ふりがな 氏名・年齢・生年月日・性別	ふりがな 〇〇〇〇 (〇〇歳) (昭和〇〇年〇〇月〇〇日生) (女)
所属・役職	(独) 〇〇機構 主任研究員
候補者の現住所	〒 - 〇〇県〇〇市〇〇町 1-3

- ・同一の業績に対して複数の候補者がある場合には、本件業績に対する貢献度の高い順に、まず筆頭者の氏名・所属・役職等を記載し、その後他の候補者の氏名・所属・役職等を記載すること。ただし、重要な貢献をしている者以外は候補者に含めないこと。
- ・同一の業績に対する候補者の人数については、原則5名以内とする。
- ・候補者は、本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名は、原則として戸籍と同一の文字を使用すること。必ずふりがなを付すこと。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・現住所は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・株式会社は(株)、財団法人は(財)、社団法人は(社)、独立行政法人は(独)とし、役職は正確に記載すること。

3. 会社概要

候補者氏名	団体名称	資本金 (百万円)	会員数等 (人)	資産等 (百万円)	団体の業務
〇〇〇〇	(株) 〇〇工業				
〇〇〇〇	〇〇大学	—		—	—
〇〇〇〇	(独) 〇〇機構	—		—	—

- ・同一の業績に対して複数の候補者があり、その所属機関が異なる場合には、すべての機関ごとに各項目を記載すること。
- ・団体の概要を示す資料（パンフレット等）を添付すること（大学等の公的機関を除く）。
- ・大学等の公的機関の場合には、「団体名称」および「会員数等」（事務局職員と研究者等の合計数）欄の記載のみで可。

4. 表彰歴 【候補案件の成果に関する受賞】

表彰年月日	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
平成〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名： 〇〇〇〇、△△△△、□□□□)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(社) 〇〇学会

- ・候補案件の成果に関する受賞について、すべて記載すること。（それ以外の受賞は記載しないこと。）
- ・表彰年月日、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、すべての受賞者氏名を記載すること。（本件候補者氏名に下線を付すこと）
- ・表彰歴欄に記載したすべての受賞について、表彰状の写ならびに、受賞理由および業績内容のわかる資料（表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等）の写を添付すること。

5. 推薦機関

機関名	
代表者氏名	
所在地等	〒 ー TEL :
推薦事務担当者 所属・氏名 ^{ふりがな} 連絡先	TEL : FAX : E-Mail :

- ・本項については、推薦機関ならびに、その機関内の推薦事務担当者について記載すること。
- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長が指定し、推薦依頼を発出した機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、「6. 本件内容に関する問い合わせ先」に記載された者と連絡がとれない場合に、確実に連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関にあるものとする。

6. 本件内容に関する問い合わせ先

所属・氏名 ^{ふりがな}	
連絡先	TEL : FAX : E-Mail :

- ・「本件内容に関する問い合わせ先」欄には、候補の業績について、文部科学省からの質問等（技術的内容を含む）に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。（但し、候補者本人は不可。）
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。（複数名記載可）

7-1. 業績の概要

(1) 当該分野における普及啓発、理解増進の背景

当該分野における従来の状況を含め、本件活動の背景を記載。

- ・
- ・
- ・

(2) 候補案件の成果の内容

本件活動の内容が具体的に理解できるように記載。

- ・
- ・
- ・

(3) 候補案件の成果による社会的効果・実施効果

科学技術の普及啓発、理解増進の観点から、本件活動が社会に及ぼした影響等を記載。

- ・
- ・
- ・

- ・ 本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・ 文章はすべて簡条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・ 候補案件の成果と関係のない記述はしないこと。

7-2. 候補案件の成果の内容

本調査書7-1(2)候補案件の成果の内容、(3)候補案件の成果による社会的効果・実施効果について、フロー図等を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・本項は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式 4

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料
「特許・実用新案一覧」

候補案件の成果に関する特許・実用新案一覧（全件記載のこと）

1. 特許第○○○○○○号（特公昭○○-○○○○号）「○○の製造方法」、
昭和○○年○○月○○日出願（昭和○○年○○月○○日登録）、
全発明者氏名：○○○○（株）○○工業○○開発部長

◎2. 特許第○○○○○○号「○○の成型方法」（○○学会○○賞受賞）、
平成○○年○○月○○日出願（平成○○年○○月○○日登録）
全発明者氏名：○○○○（株）○○工業○○開発部長、△△△△（株）○○主任研究員、□□
□□（株）○○研究員、

3.

：
：
：

- ・候補案件の成果に関するすべての特許・実用新案（成立特許・実用新案のみ）について、特許番号、タイトル、出願年月日（登録年月日）、全発明者氏名を記載すること。（本件成果と直接関係のない特許・実用新案については記載しないこと。登録されていないもの（権利を取得するために手続き中のものを含む。）は記載しないこと。）
- ・候補調査書「9. 候補者の成果に関する主要特許・実用新案・論文」に記載した特許については、本資料にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・「全発明者氏名」欄について、共同開発の場合には、本件候補者を含む全員の役職（開発当時の役職を記載すること）・氏名の特許公報等と同じ順番で省略せずにすべて記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・一覧に記載した特許・実用新案に関連する発明について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの後にかっこ書きで記載すること。
- ・一覧に記載したすべての特許・実用新案の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式5

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料
「研究論文一覧」

候補案件の成果に関する研究論文一覧（全件記載のこと）

1. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、△△△△（○○大学教授）、□□□□（○○大学教授）、
「○○○○の研究」（○○学会○○賞受賞）、○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○年○○月発表
 2. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、□□□□（○○大学教授）、◇◇◇◇（○○研究所研究
員）、「○○○○の効果的利用について」、○○学会誌vol. ○ p○～○、○○年○○月発表
- :
:
:

- ・候補案件の成果に係る受賞候補者のすべての論文（査読付き論文）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月（西暦）を記載すること。（本件成果と直接関係のない論文については記載しないこと。）
- ・候補調査書「9. 候補者の成果に関する主要特許・実用新案・論文」に記載した論文については、本資料にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・「全執筆者氏名」について、共著であれば、本件候補者を含む全員の役職（発表当時の役職を記載すること）・氏名を論文と同じ順番で省略せずにすべて記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本資料に記載した論文に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の後にカッコ書きで記載すること。
- ・本資料に記載したすべての論文の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式 6

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料
「研究論文・著書一覧」

候補案件の成果に関する研究論文・著書一覧（全件記載のこと）

1. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、△△△△（○○大学教授）、□□□□（○○大学教授）、
「○○○○の研究」（○○学会○○賞受賞）、○○学会誌 vol. ○ p○～○、○○年○○月発表
2. ○○○○（株）○○工業○○開発部長）、□□□□（○○大学教授）、◇◇◇◇（○○研究所研究
員）「○○○○の効果的利用」、○○○○誌（○○部発行）、○○年○○月発行
3.
:
:
:

- ・候補案件の成果に関する受賞候補者のすべての論文（査読付き論文）について、全執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月（西暦）を記載すること。（本件成果と直接関係のない論文については記載しないこと。）
- ・候補案件の成果に関する受賞候補者のすべての著書について、全執筆者氏名、著書名、出版社名、発行部数、発行年月（西暦）を記載すること。（本件成果と直接関係のない著書については記載しないこと。）
- ・科学技術振興部門において、候補調査書「9. 候補者の成果に関する主要特許・実用新案・論文」に記載した論文については、本資料にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・「全執筆者氏名」について、共著であれば、本件候補者を含む全員の役職（発表当時の役職を記載すること）・氏名を論文・著書と同じ順番で省略せずにすべて記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本資料に記載した論文・著書に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文・著書名の後に記載すること。
- ・本資料に記載したすべての論文の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）
- ・本資料に記載したすべての著書については、表紙及びまえがきの写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷不可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式7

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料
「講演一覧」

候補案件の成果に関する講演一覧（全件記載のこと）

1. ○○年○○月○○日、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」
講演者：○○○○（株）○○工業○○開発部長
2. ○○年○○月○○日、○○○○セミナー（○○○○主催）、「○○○○の○○について」
講演者：○○○○（○○大学教授）
3.

:
:
:

- ・表彰対象候補案件の成果に関するすべての講演について、講演年月日、セミナー等名称（主催団体名）、演台名、講演者を記載すること。（本件成果と直接関係のない講演については記載しないこと。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式 8

科学技術賞 ○○部門 候補調査書付属資料
「新聞等掲載状況一覧」

候補案件の成果を取り上げた新聞記事等一覧（全件記載のこと）

1. ○○年○○月○○日掲載、○○新聞（○面）、「○○○○の○○について」
 - ◎2. ○○年○○月○○日掲載、△△新聞（○面）、「○○○○の○○について」
 - ◎3. ○○年○○月○○日発刊、△△誌（p○～○）、「○○○○の○○について」
- :
:
:

- ・候補案件の成果を取り上げたすべての新聞記事、雑誌等について、掲載・発刊年月日、掲載紙・雑誌名、タイトルを記載すること。（本件成果に直接関係ない新聞記事等については記載しないこと。）
- ・一覧に記載した新聞記事等のうち、候補案件の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写を添付すること。但し、添付する新聞記事等は10件以内とする。（写とは、A4用紙に切り抜き記事を貼付し、コピーしたもの。）
- ・写を添付した項目に◎を付すこと。

履 歴 書

氏 名 ふりがな
〇 〇 〇 〇

生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)(表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。)

本籍地 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
現住所 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
現職 (株)〇〇工業 代表取締役社長

(学 歴)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業

(職 歴)

自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 入社
至昭和〇〇年〇〇月〇〇日
自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 〇〇課長
至昭和〇〇年〇〇月〇〇日
自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 代表取締役社長
至 現 在

(公 職 歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇会議 〇〇委員
至 現 在

(民間団体歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (財)〇〇協会 理事
至 現 在

(賞 罰)

表彰年月日	表彰業績名称	表彰主体	受賞者
昭和〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇賞	(財)〇〇協会	本人他〇名

(3) 文部科学大臣表彰若手科学者賞

表彰対象

1. 文部科学大臣表彰若手科学者賞は、次代を担う若手研究者の自立を促し、独創性の高い科学技術の発信に貢献するため、萌芽的な研究あるいは、独創的視点に立った研究等、高い研究開発能力を示した若手研究者個人を表彰する。
2. 文部科学大臣表彰若手科学者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。
萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた若手研究者個人

〈解説〉

- * 1 「萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた若手研究者個人」とは
 - ・ 科学技術の各分野において、新たな研究手法、独創的な視点に立った研究手法等によりその研究能力あるいは開発能力の優秀性を示す顕著な業績を挙げた者
 - ・ 学会表彰等により、研究の独創性等が客観的に評価されている者
 - ・ 国際的に高い評価を得ている学会誌・雑誌等に論文が掲載され、その優秀性が客観的に評価されている者
- * 2 本賞にいう「若手研究者」とは
 - ・ 受賞時（表彰年度の4月1日現在）において40歳未満の研究者
（なお、上記年齢制限内であれば日本学術振興会特別研究員も対象になります）

申請可能な系・分野

系：総合・新領域系、理工系、生物系

分野：数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学の6分野。なお、総合領域・複合新領域の者は、上記6分野の中から最も近い分野を選択すること。

○申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰若手科学者賞への申請に際しては、以下の書類を所定の様式に従い作成のうえ提出すること。

なお、書類は紙媒体で提出する他、(1)の候補調査書については電子媒体（DVD又はCD）を提出すること。

(1) 候補調査書（3部）

様式10（43～49頁）に従い作成すること。

項目7-3及び7-4には、査読付き論文及び成立特許・実用新案のみを記載可能とし申請中のものは記載しないこと。なお、記載したすべての論文及び特許・実用新案の写を添付すること。（各2部・両面印刷可）

(2) 候補者調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」（3部）

様式11（50頁）に従い作成すること。

本資料に記載した新聞記事等のうち、表彰対象の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写（10件以内）を添付すること。（各2部・両面印刷不可）

(3) 履歴書（3部）

様式12（51頁）に従い作成すること。

(4) 戸籍抄本（1部）

ただし、外国籍の受賞候補者は、推薦締切日の2ヶ月以内に発行された住民票でも良い。

(5) 候補者推薦書（3名分それぞれ正1部、副2部）

様式 13 (52 頁) に従い作成すること。

- ・本推薦書の作成については、推薦機関が責任を持つこと。
- ・本推薦書は候補者の研究能力に対する客観的評価に関わるものである。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者（例えば候補者の所属する研究チームのリーダー及びサブリーダー、もしくは当該研究チームの一員でも可）が、それぞれの視点から記載すること。
- ・本推薦書は、3名の者からの提出を要する。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。
- ・本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。

○申請書類提出要領

文部科学大臣表彰若手科学者賞への申請に際しては、様式に従い作成した候補調査書、候補調査書付属資料、特許・論文の写し等の各種書類は、以下の要領に従い提出すること。

(1) 資料の順番

(A) 管理用書類 (1部)

各種書類を1部ずつ①～⑦の順番に並べ、左肩クリップもしくは左肩ホチキス止めとし、1セットとすること。

- ①候補調査書 (様式 10)
- ②候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」 (様式 11)
- ③履歴書 (様式 12)
- ④戸籍抄本 (外国籍の受賞候補者は住民票)
※B5サイズの戸籍抄本 (外国籍の受賞候補者は住民票) の場合には、A4用紙にのり付けすること。また、B4サイズの場合には、適当な位置で折り、A4用紙に左横のり付けすること。
- ⑤その他資料
 - ・会社の概要を示す資料 (パンフレット等) (大学等の公的機関の場合には不要)
 - ・受賞関係資料 (表彰概要、表彰状の写、受賞理由及び業績内容のわかる資料)
- ⑥候補者推薦書 (3名分 (正))
- ⑦電子媒体 ①の「候補調査書 (様式 10)」の内容を収めた電子媒体を提出すること。

(B) 審査用書類 (2部)

各種書類を1部ずつ①～⑥の順番に並べ、左肩クリップもしくは左肩ホチキス止めとし、1セットとすること。

- ①候補調査書 (様式 10)
- ②候補調査書 7-4 ①研究論文一覧及び②特許・実用新案一覧に記載の論文及び特許・実用新案の写
(論文、特許もしくは実用新案1件ごとに左肩ホチキス止めするとともに、右肩に一覧記載の通し番号を付記してその順番に並べ、クリップ止めすること。)
- ③候補調査書付属資料「新聞等掲載状況一覧」 (様式 11)
 - ④「新聞等掲載状況一覧」に記載の新聞記事等の写 (A4版の大きさに統一し左肩ホチキス止め)
- ⑤履歴書 (様式 12)
- ⑥候補者推薦書 (3名分 (副))

(2) 資料の取りまとめ

- ・上記 (1) により作成した資料を、1セットずつ封筒に入れること。
- ・封筒の右肩には、それぞれ内容物が分かるよう、以下を記載すること。
 - ①申請する賞と申請分野の名称
※申請分野は、候補調査書 7-1 「業績の概要」の「申請分野」①分野 (数物系科学・化学・工学・生物学・農学・医歯薬学) を記載する。なお、申請分野が総合領域・複

合新領域の者は、上記 6 分野の中から最も近い分野を選択すること。

②候補者氏名

③推薦機関名

④管理用資料、審査用資料の別

例) 管理用資料の場合 … 「管」と記載

審査用資料 1 セット目の場合 … 「審 - 1」と記載

審査用資料 2 セット目の場合 … 「審 - 2」と記載

・資料 1 セットが、封筒 1 枚にまとめられない場合には分けて入れること。

その際には、その旨が分かるよう封筒右肩に記載すること。

例) 審査用資料が封筒 1 枚にまとめられず、封筒 2 枚に分かれる場合。

若手科学者賞 ○○分野

候補者氏名 ○○○○

推薦機関名 △△△△

「審 - 1」 1 / 2

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請書類には記載しないこと。

- ・本調査書について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は、審査の対象から除外する。
- ・本調査書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、7枚以内にまとめること。（両面印刷不可）

様式10

若手科学者賞 候補調査書

1. 業績名

--

- ・業績名は、候補案件とする研究テーマの内容を的確に表すものを記載すること。（複数不可）
- ・業績名は、「○○○○○の研究」とすること。
- ・業績名は語尾を含めて必ず28文字以内とすること。なお、原則として業績名に句読点等（（ ）「 」・、。）は使用しないこと。

2. 受賞候補者

<small>ふりがな</small> 氏名・年齢・生年月日・性別	<small>ふりがな</small> ○○○○ （○○歳）（昭和○○年○○月○○日生） （女）
所属・役職	○○大学 ○○学部 教授 （（株）○○工業 ○○部 主任研究員）
候補者の現住所	〒 — ○○県○○市○○町 1-1

- ・受賞候補者は、本件業績について、科学技術上の貢献が客観的に確認できる者であること。
- ・氏名は、原則として戸籍と同一の文字を使用すること。必ずふりがなを付すこと。
- ・年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記入すること。
- ・現住所は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・独立行政法人は（独）、財団法人は（財）、社団法人は（社）、株式会社は（株）とし、役職は正確に記載すること。

3. 受賞候補者の研究経歴

年 月 日	所 属 ・ 役 職	研 究 テ ー マ
平成○○年○○月○○日	○○大学○○部○○学科卒業	○○専攻
平成○○年○○月○○日～	○○大学 ○○学部 助手 〔（株）○○工業○○部 同 ○○部〕	○○○の研究 〔○○○の研究 （○○領域担当）〕
平成○○年○○月○○日～	○○大学 ○○学部 教授 〔 同 ○○部主任研究員〕	△△△の研究 〔△△△の研究 （△△領域担当）〕

- ・受賞候補者の最終学歴から現在までの研究経歴について記載すること。
- ・「研究テーマ」欄について、最終学歴の行に、就学中に専攻していた分野を記載するとともに、その後に携わった研究テーマをそれぞれ「所属・役職」に対応するように記載すること。
- ・候補案件とする研究テーマに下線を付すこと。

4. 表彰歴

表彰年月日	表彰名称	表彰業績名	表彰主催団体名
昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名: <u>〇〇〇〇</u>)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の開発」	(財) 〇〇協会
平成〇〇年〇〇月〇〇日 (受賞者氏名: <u>〇〇〇〇</u> 、 <u>△△△△</u> 、 <u>□□□□</u>)	〇〇〇〇賞	「〇〇〇〇の発明」	(社) 〇〇学会

- ・候補案件とする研究テーマにおいて、受賞候補者が表彰を受けた事項をすべて記載すること。
- ・表彰年月日、表彰名称等の各項目は正確に記載すること。
- ・受賞者氏名欄について、連名による受賞の場合には、すべての受賞者氏名を記載すること。(本件候補者氏名に下線を付すこと)
- ・表彰歴欄に記載したすべての受賞について、表彰状の写ならびに、受賞理由および業績内容のわかる資料(表彰主催団体の対外発表資料、新聞記事等)の写を添付すること。

5. 推薦機関

機関名			
代表者氏名			
所在地等	〒	—	
	TEL :		
推薦事務担当者			
所属・氏名			
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-Mail :		

- ・本項については、推薦機関ならびに、その機関内の推薦事務担当者について記載すること。
- ・推薦機関とは、文部科学省研究振興局長が指定し、推薦依頼を発出した機関。
- ・「所在地等」欄は都道府県名から記入し、番地等の数字はハイフンで結ぶこと。
- ・「推薦事務担当者」欄については、「6. 本件内容に関する問い合わせ先」に記載された者と連絡がとれない場合に、確実に連絡のとれる者を記載すること。(複数名記載可)なお、災害等の不測の場合を除き、一定期間連絡がとれない場合には、審査の対象から除外することがある。
- ・本調査書を含む申請書類についての責任は、推薦機関にあるものとする。

6. 本件内容に関する問い合わせ先

所属・氏名			
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-Mail :		

- ・「本件内容に関する問い合わせ先」欄には、候補者の業績について、文部科学省からの質問等(技術的内容を含む)に対して適切かつ確実に応答のできる者を記載すること。(但し、候補者本人は不可)
- ・必ず連絡のとれる者を記載すること。(複数名記載可)

7-1. 業績の概要

候補案件とする 研究テーマ (研究期間)	○○○○の研究 (昭和○○年○○月～平成○○年○○月)			
申請分野	① 分野	1. 数物系科学 2. 化学 3. 工学 4. 生物学 5. 農学 6. 医歯薬学		
	② 分科		③ 細目	
	※別表『若手科学者賞 申請分野分類表』(p52・53)に従い、上記「候補案件とする研究テーマ」がどのような研究分野に属するかについて、記載すること。 なお、①分野の総合領域・複合新領域分野については、上記1～6の分野で記載すること。			
候補者氏名 (役職)	○○○○ (○○大学教授)	性別	1. 男 2. 女	
共同研究者氏名 (役職)	△△△△ (○○大学教授)、□□□□ (○○大学准教授)、 ▲▲▲▲ (○○研究所主任研究員)、◇◇◇◇ (○○研究所研究員)			
候補者の担当領域				
候補案件とする研究テーマ				
(1) 当該分野における位置付け 当該分野における本研究テーマの目的を含めて簡潔明瞭に記載。				
(2) 具体的内容 ①本候補者の研究の内容 本候補者の研究の独創性が、明確かつ理解できるように記載。 ②本候補者の着眼点とその論理的根拠 本研究テーマにおける具体的研究手法・手段を含めて簡潔明瞭に記載。				
(3) 当該分野における研究のながれ 当該分野における研究動向 (方向性・手段等) について、現状ならびに問題点を中心に記載。				
(4) 当該分野における本候補者の着眼点の優秀性 本候補者の着眼点の優秀性を、当該分野に対するインパクト等を含めて記載。				

.....

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・文章はすべて簡条書きとし、簡潔明瞭に記載すること。(図表等の使用は不可。)
- ・受賞候補者の成果と関係のない記述はしないこと。

.....

7-2. 候補案件とする研究テーマの内容

本調査書7-1 (2) 候補案件とする研究テーマの具体的内容 (①本候補者の研究の内容、②本候補者の着眼点とその論理的根拠)、(4) 当該分野における本候補者の着眼点の優秀性について、図表を用いて理解し易く説明すること。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・参考図は、カラー可とする。(ただし、写真の貼付は不可。)
- ・参考図について、特許公報等の図の転用は原則不可。(やむをえず特許公報等の図を使用する場合には、内容を理解するうえで必要な説明をすべて付すこと。)
- ・参考図には必ず概要説明を付すこと。

7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案（5件以内）

① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全著者名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・頁・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、当該候補者の本論文に関する研究において貢献した度合いを数値化したもの。
① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全著者名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・頁・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、当該候補者の本論文に関する研究において貢献した度合いを数値化したもの。
① 論文名：「○○○○○○の研究」 ② 全著者名（候補者氏名に下線） ③ 掲載誌名・巻号・頁・発表年月：○○学会誌 vol.○ p○～○、○年○月発表 ④ 当該論文の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、当該候補者の本論文に関する研究において貢献した度合いを数値化したもの。
① 登録番号・タイトル：特許第○○○○○○号 「○○○○装置」 ② 全発明者氏名（候補者氏名に下線） ③ 出願（登録）年月日：昭和○○年○○月○○日出願（昭和○○年○○月○○日登録）、 ④ 当該特許の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、当該候補者の本特許に関する研究において貢献した度合いを数値化したもの。
① 登録番号・タイトル：特許第○○○○○○号 「○○○○装置」 ② 全発明者氏名（候補者氏名に下線） ③ 出願（登録）年月日：昭和○○年○○月○○日出願（昭和○○年○○月○○日登録）、 ④ 当該特許の概要 ・ ・		
候補者の貢献度	%	※「候補者の貢献度」とは、当該候補者の本特許に関する研究において貢献した度合いを数値化したもの。

- ・本項は、A4縦用紙1枚で簡潔にまとめ、当該分野の専門家以外の者にも理解できるように作成すること。
- ・候補案件とする研究テーマに関する受賞候補者の主要な論文（査読付き論文）の論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月（西暦）を記載するとともに、当該論文の概要について箇条書きで記載すること。
- ・候補案件とする研究テーマに関する主要な特許・実用新案（*成立特許・実用新案のみ*）の登録番号、タイトル、出願年月日（登録年月日）を記載するとともに、当該特許の概要について箇条書きで記載すること。登録されていないもの（権利を取得するために手続き中のものを含む。）は記載しないこと。
- ・主要論文・特許・実用新案あわせて5件以内で記載。

7-4. 候補案件とする研究テーマに関する成果

①研究論文一覧
◎1. <u>△△△△</u> (〇〇大学教授)、〇〇〇〇 ((株)〇〇工業〇〇部主任研究員)、□□□□ (〇〇大学教授)、「〇〇〇〇の開発とその効果について」(〇〇学会〇〇賞受賞)、〇〇学会誌vol. 〇 p〇~〇、〇〇年〇〇月発表
◎2. <u>□□□□</u> (〇〇大学教授)、〇〇〇〇 ((株)〇〇工業〇〇部主任研究員)、◇◇◇◇ (〇〇研究所研究員)、「〇〇〇〇の効果的利用について」、〇〇学会誌vol. 〇 p〇~〇、〇〇年〇〇月〇〇日発表
3.
4.
:
:
:

--

- ・候補案件とする研究テーマに関係する受賞候補者のすべての論文(査読付き論文)について、執筆者氏名、論文名、掲載誌名、巻号、頁、発表年月(西暦)を記載すること。
- ・執筆者氏名について、共著であれば、本件候補者を含む全員の役職(発表当時の役職を記載すること)・氏名を論文と同じ順番で省略せずにすべて記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本調査書「7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案」に記載した論文については、本項にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・本項に記載した論文に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨を論文名の後にカッコ書きで記載すること。
- ・本項に記載したすべての論文の写を添付すること。(写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。)

②特許・実用新案一覧

- ◎ 1. 特許第〇〇〇〇〇〇号（特公昭〇〇－〇〇〇〇号）「〇〇の製造方法」、
昭和〇〇年〇〇月〇〇日出願（昭和〇〇年〇〇月〇〇日登録）、
全発明者氏名：△△△△（〇〇大学教授）、〇〇〇〇（(株)〇〇工業〇〇部主任研究員）
2. 特許第〇〇〇〇〇〇号「〇〇〇の成型方法」（〇〇学会〇〇賞受賞）、
平成〇〇年〇〇月〇〇日出願（平成〇〇年〇〇月〇〇日登録）
全発明者氏名：◎◎◎◎（〇〇大学教授）、△△△（(株)〇〇主任研究員）、□□□□（(株)〇〇研究員）
- 3.
- 4.
- :
:
:
:

- ・候補案件とする研究テーマに関係する受賞候補者のすべての特許・実用新案（成立特許・実用新案のみ）について、特許番号、タイトル、出願年月日（登録年月日）、全発明者氏名を記載すること。（本件成果と直接関係のない特許・実用新案については記載しないこと。）
- ・発明者氏名について、共同開発であれば、本件候補者を含む全員の役職（開発当時の役職を記載すること）、氏名を特許公報と同じ順番で省略せずにすべて記載し、本件候補者氏名には下線を付すこと。
- ・本調査書「7-3. 候補案件の研究テーマに関する主要論文・特許・実用新案」に記載した特許・実用新案については、本項にも記載するとともに、◎印を付すこと。
- ・本項に記載した特許・実用新案に関連する研究について、各種表彰や学会賞等を受賞している場合には、その旨をタイトルの後にかっこ書きで記載すること。
- ・本項に記載したすべての特許・実用新案の写を添付すること。（写についてはA4縦用紙で統一すること。両面印刷可。）

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料について、不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件は審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可）

様式 11

若手科学者賞 候補調査書付属資料
「新聞等掲載状況一覧」

候補者の成果を取り上げた新聞記事等一覧（全件記載のこと）

1. ○○年○○月○○日掲載、○○新聞（○面）、「○○○○の○○について」
 - ◎2. ○○年○○月○○日掲載、△△新聞（○面）、「○○○○の○○について」
 - ◎3. ○○年○○月○○日発刊、△△誌（p○～○）、「○○○○の○○について」
- :
- :

- ・受賞候補者の成果を取り上げたすべての新聞記事・雑誌等について、掲載・発刊年月日、掲載紙・雑誌名、タイトルを記載すること。
- ・本資料に記載した新聞記事のうち、受賞候補者の成果が具体的に記載され、その内容が理解しやすい新聞記事等の写を添付すること。但し、添付する新聞記事等は 10 件以内とする。（写とは、A4用紙に切り抜き記事を貼付し、コピーしたもの。）
- ・写を添付した項目に◎を付すこと。

履 歴 書

氏 名 ふりがな
 〇 〇 〇 〇

生年月日 昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (〇〇歳)(表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。)

本籍地 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
現住所 〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
現職 (株)〇〇工業 代表取締役社長

(学 歴)

昭和〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業

(職 歴)

自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 入社
至昭和〇〇年〇〇月〇〇日
自昭和〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 〇〇課長
至昭和〇〇年〇〇月〇〇日
自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (株)〇〇工業 代表取締役社長
至 現 在

(公 職 歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇会議 〇〇委員
至 現 在

(民間団体歴)

自平成〇〇年〇〇月〇〇日 (財)〇〇協会 理事
至 現 在

(賞 罰)

表彰年月日	表彰業績名称	表彰主体	受賞者
昭和〇〇年〇〇月〇〇日	〇〇賞	(財)〇〇協会	本人他〇名

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
- ・本推薦書は、候補者及び候補者の研究内容について理解し、十分把握している者（3名）がそれぞれの視点から記載すること。従って、記載内容は記載者によって異なることを前提とする。なお、本推薦書に記載の内容は、候補者本人を含め他者には口外しないこと。
- ・本推薦書は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成し、記載者1人につき1枚以内とし、正1部・副2部を提出すること。

様式 13

若手科学者賞 候補者推薦書

平成 年 月 日

推薦者			
所属機関 役職・氏名		推薦者署名欄 (自筆にて記載)	
候補者との関係			
所在地	〒 ー		
連絡先	TEL :	FAX :	
	E-Mail :		

候補者	
候補者 役職・氏名	
候補案件とする 研究テーマ	
共同研究の場合の共同研 究者氏名・役職	
候補案件とする研究テーマについて	
1. 当該研究テーマの概要	
2. 当該研究テーマの遂行・進捗における候補者の担当領域の内容・特筆すべき事項(貢献の具体的内容)	

若手科学者賞 申請分野分類表

系	分野	分科	細目名
総合・新領域系	総合領域	情報学	情報学基礎
			ソフトウェア
			計算機システム・ネットワーク
			メディア情報学・データベース
			知能情報学
			知覚情報処理・知能ロボティクス
			感性情報学・ソフトコンピューティング
			情報図書館学・人文社会情報学
			認知科学
			統計科学
			生体生命情報学
		神経科学	神経科学一般
			神経解剖学・神経病理学
			神経化学・神経薬理学
			神経・筋肉生理学
		実験動物学	実験動物学
		人間医工学	医用生体工学・生体材料学
			医用システム
			リハビリテーション科学・福祉工学
		健康・スポーツ科学	身体教育学
			スポーツ科学
			応用健康科学
		生活科学	生活科学一般
			食生活学
		科学教育・教育工学	科学教育
			教育工学
		科学社会学・科学技術史	科学社会学・科学技術史
	文化財科学	文化財科学	
	地理学	地理学	
	複合新領域	環境学	環境動態解析
			環境影響評価・環境政策
			放射線・化学物質影響科学
			環境技術・環境材料
		ナノ・マイクロ科学	ナノ構造科学
			ナノ材料・ナノバイオサイエンス
			マイクロ・ナノデバイス
		社会・安全システム科学	社会システム工学・安全システム
			自然災害科学
		ゲノム科学	基礎ゲノム科学
		応用ゲノム科学	
	生物分子科学	生物分子科学	
	資源保全学	資源保全学	

系	分野	分科	細目名
理工系	数物系	数学	代数学
			幾何学
			数学一般(含確率論・統計数学)
			基礎解析学
		大域解析学	
		天文学	天文学
		物理学	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理
			物性Ⅰ
			物性Ⅱ
			数理物理・物性基礎
	原子・分子・量子エレクトロニクス・プラズマ		
	地球惑星科学	生物物理・化学物理	
		固体地球惑星物理学	
		気象・海洋物理・陸水学	
		超高層物理学	
		地質学	
	層位・古生物学		
	岩石・鉱物・鉱床学		
	地球宇宙化学		
	プラズマ科学	プラズマ科学	
	化学	基礎化学	物理化学
			有機化学
			無機化学
		複合化学	分析化学
			合成化学
			高分子化学
			機能物質化学
			環境関連化学
		生体関連化学	
		材料化学	機能材料・デバイス
	有機工業材料		
	無機工業材料		
		高分子・繊維材料	
	工学	応用物理学・工学基礎	応用物性・結晶工学
			薄膜・表面界面物性
			応用光学・量子光工学
			応用物理学一般
			工学基礎
		機械工学	機械材料・材料力学
			生産工学・加工学
			設計工学・機械機能要素・トライボロジー
			流体工学
			熱工学
	機械力学・制御		
	知能機械学・機械システム		
	電気電子工学	電力工学・電気機器工学	
		電子・電気材料工学	
電子デバイス・電子機器			
通信・ネットワーク工学			
システム工学			
計測工学			
制御工学			
土木工学	土木材料・施工・建設マネジメント		
	構造工学・地震工学・維持管理工学		
	地盤工学		
	水工水理学		
	交通工学・国土計画		
土木環境システム			
建築学	建築構造・材料		
	建築環境・設備		
	都市計画・建築計画		
建築史・意匠			
材料工学	金属物性		
	無機材料・物性		
	複合材料・物性		
	構造・機能材料		
	材料加工・処理		
金属生産工学			
プロセス工学	化工物性・移動操作・単位操作		
	反応工学・プロセスシステム		
	触媒・資源化学プロセス		
生物機能・バイオプロセス			
総合工学	航空宇宙工学		
	船舶海洋工学		
	地球・資源システム工学		
	リサイクル工学		
	核融合学		
	原子力学		
	エネルギー学		

系	分野	分科	細目名
生物系	生物学	基礎生物学	遺伝・ゲノム動態
			生態・環境
			植物生理・分子
			形態・構造
			動物生理・行動
		生物多様性・分類	
		生物科学	構造生物化学
			機能生物化学
			生物物理学
			分子生物学
	細胞生物学		
	人類学	発生生物学	
		進化生物学	
		人類学	
		生理人類学	
		育種学	
	農学	農学	作物学・雑草学
			園芸学・造園学
			植物病理学
			応用昆虫学
			植物栄養学・土壌学
		農芸化学	応用微生物学
			応用生物化学
			生物生産化学・生物有機化学
			食品科学
			林学
		水産学	林学・森林工学
			林産科学・木質工学
			水産学一般
			水産化学
			農業経済学
	農業工学	農業経済学	
		農業土木学・農村計画学	
		農業環境工学	
		農業情報工学	
		畜産学・草地理学	
	畜産学・獣医学	畜産学・草地理学	
		応用動物科学	
		基礎獣医学・基礎畜産学	
		応用獣医学	
臨床獣医学			
境界農学	環境農学		
	応用分子細胞生物学		
医歯薬学	薬学	化学系薬学	
		物理系薬学	
		生物系薬学	
		創薬化学	
		環境系薬学	
	医療系薬学		
	基礎医学	解剖学一般(含組織学・発生学)	
		生理学一般	
		環境生理学(含体力医学・栄養生理学)	
		薬理学一般	
		医化学一般	
		病態医化学	
		人類遺伝学	
		人体病理学	
		実験病理学	
		寄生虫学(含衛生動物学)	
		細菌学(含真菌学)	
		ウイルス学	
		免疫学	
		境界医学	医療社会学
			応用薬理学
	病態検査学		
	社会医学	衛生学	
		公衆衛生学・健康科学	
	法医学		

系	分野	分科	細目名		
生物系	内科系臨床医学	内科系臨床医学	内科学一般(含心身医学)		
			消化器内科学		
			循環器内科学		
			呼吸器内科学		
			腎臓内科学		
			神経内科学		
			代謝学		
			内分泌学		
			血液内科学		
			膠原病・アレルギー・感染症内科学		
			小児科学		
			胎児・新生児医学		
			皮膚科学		
			精神神経科学		
			放射線科学		
	外科系臨床医学	外科系臨床医学	外科学一般		
			消化器外科学		
			胸部外科学		
			脳神経外科学		
			整形外科		
			麻酔・蘇生学		
			泌尿器科学		
			産婦人科学		
			耳鼻咽喉科学		
			眼科学		
			小児外科学		
			形成外科学		
			救急医学		
			歯学	歯学	形態系基礎歯科学
					機能系基礎歯科学
	病態科学系歯学・歯科放射線学				
	保存治療系歯学				
	補綴理工系歯学				
	外科系歯学				
	矯正・小児系歯学				
	歯周治療系歯学				
	社会系歯学				
	基礎看護学				
	看護学	看護学	臨床看護学		
			地域・老年看護学		

* 若手科学者賞候補調査書(様式10)中、「7-1業績の概要」の「申請分野」の欄において、候補案件とするテーマがどのような研究分野に属するかについて、上記表に従い、分野、分科、細目まで記載すること。

(4) 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞

表彰対象

1. 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞は、鉱工、農林、水産、運輸、通信、建設、保健衛生、電力ガス等の業務に従事する勤労者のうち、工場等における職長以下の工員、農林水産業従事者、医療補助者、研究所における研究補助員、技能職員及びこれと同程度の者であって、優れた創意工夫によって各職域における技術の改善向上に貢献した者を表彰する。
2. 文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞は、以下の要件に該当する者を対象とする。
優れた創意工夫によって職域における科学技術の進歩又は改良に寄与した個人又はグループ

〈解説〉

1. 企業や公設研究所等における管理者や主任研究員等に対しては、国家的表彰、あるいは民間科学技術振興団体の表彰が種々行われているが、工員、研究補助員等に対する表彰は、一般に企業等の内部表彰として行われているにすぎない。

しかし、優れた科学技術はトップレベルの技術関係者のみによって達成されるものではなく、各々の分野において、実際に工場等の現場で創意工夫に努力している関係者の幅広い基盤があってこそ、高水準の技術が生まれ育っていくものと考えられる。本表彰制度は、こうした観点から企業体等において、職場で実際に創意工夫を行い、科学技術振興の基盤づくりに貢献している者を対象として昭和35年より行っているものである。

2. 表彰対象について

- * 1 創意工夫の内容については、候補者の職域における創意工夫（発明・考案に限らず、広く一般の創意工夫を含む）によって、例えば作業能率の向上、製品の品質の向上、コスト引き下げ、未利用資源の活用、作物の増収、品種改良、傷害防止、公害、災害の防止等職域における技術の改善向上に貢献した実績顕著なものとする。従って、単なる永年勤続者、精勤者等は対象とはならない。
- * 2 年齢制限については原則として設けない。ただし、同一会社に継続して5年以上就業していることを要する。
- * 3 候補者の学歴については、原則として高等学校卒業以下を対象とする。ただし、短大、高等専門学校及び文化系の大学卒業者も対象とする。なお、就業中に夜間の大学（理工系）を卒業した者についても対象とする。
- * 4 候補者は人格に著しい欠陥のない者であること。
- * 5 異なった業績による場合であっても、5年以内における同一人の重複した表彰は行わない。
- * 6 原則として、1業績3名以内（個人）とする。
- * 7 候補者の職場における地位上の制限については、工場などにおける職長以下の工員、農業従事者、医療補助者、研究所における技能職員、及びこれと同程度の者までとする。

(*7に関する補足説明)

- ・ 鉱工、農林、水産、運輸、通信、建設などに関する工場、事業場（農場、牧場などを含む）に勤務する勤労者の場合は、職長、班長、工員、作業員、運搬員、配達員などであって職長以下の地位にある者。
- ・ 保険、衛生の業務に従事する勤労者の場合は、例えば病院、診療所、医療研究機関などにおける看護師、助産師、保健師、衛生検査技師、歯科衛生士、歯科技工士、栄養士、診療エックス線技師、研究用実験動物の飼育などに従事する医療補助者を対象とする。
- ・ 各種研究所、試験場、学校等における勤労者にあつては、例えば、研究用機器の運転、手入れ、研究用資料の整備、調整、制作、研究用機器の作成、研究成果の製表、圃場の整理、

研究用動植物の育成等の業務に従事する技能職員を対象とする。

- ・ 中小企業において職制が明瞭でない場合には、経営者以外であれば一応該当者とする。
- ・ 小規模企業（従業員20名以下）、家族労働者を含む程度の個人企業例えば農業従事者、大工、左官などの事業の場合は経営者自身も対象としてよい。

3. 推薦機関における候補者の選考にあたっての注意事項

各推薦機関における候補者の選考にあたっては、それぞれ以下の点に留意すること。

・ 中央省庁

候補者は、各省庁所属の団体（研究所、学校、試験場、病院、工場、事業場、特殊法人、元公社（NTT、JR、JT）、独立行政法人等（ただし大学を除く））の職員であること。

・ 都道府県

候補者は、各都道府県内に所在する工場、事業場、病院、研究所、学校等に勤務する勤労者であること。（候補者の現住所と工場等の所在する都道府県が異なる場合には、その工場等の所在する都道府県において推薦すること。）

ただし、中央省庁所属の団体（研究所、学校、試験場、病院、工場、事業場、特殊法人、元公社（NTT、JR、JT）、独立行政法人等（ただし大学を除く））に属する者については、これらを主管する省庁から推薦されるので選考の対象から除外すること。

・ 退職等

候補者は、表彰年度の4月1日現在において、推薦時点での表彰対象となる職場における地位上の制限を満たす企業等の職員である必要があるため、退職予定の者や地位の変更等が見込まれる者は推薦しないこと。

○申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞への申請に際しては、以下の書類を指定の様式に従い作成のうえ提出すること。

（1）候補者調査書（1部）

様式14（57～58頁）に従い作成すること。

（2）候補者一覧表（3部）

様式15（60頁）に従い作成すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
- ・本資料は、別紙「調査書記入上の注意」に従い、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。（両面印刷不可。）

様式 14

創意工夫功労者賞 候補者調査書

(推薦機関記入欄)		推薦都道府県名	
推薦順位	位	推薦省庁名 ()	

1. 業績名

--

2. 候補者について

候補者氏名・年齢	ふりがな (〇〇歳)
生年月日	明・大・昭 〇〇年 〇〇月 〇〇日生
候補者の現住所	〇〇県〇〇市〇〇町 1-1
最終学歴	明・大・昭 〇〇年 都・道・府・県立 学校 科卒業
候補者の人格	

3. 候補者の勤務先について

候補者勤務先名称				
現在の勤務上の地位	〇〇職長 (〇〇相当)			
入社(就業)年月	大・昭・平 〇〇年 〇〇月 (計 〇〇年 〇〇月)			
勤務先の概要	名称		当工場事業所等の従業員数	人
	所在地		全従業員数	人
	事業概要		資本金	円

4. 現在までの受賞の有無

受賞年月日	表彰名	表彰主体	受賞者
昭和 年 月 日	〇〇賞 「〇〇〇〇の考案」	(財)〇〇法人	本人
平成 年 月 日	〇〇賞 「〇〇〇〇の考案」	(財)〇〇法人	本人 企業

5. 創意工夫の内容について

①業績名

②創意工夫の内容

③創意工夫の実績

1. 様式14「創意工夫功労者賞候補者調査書」について、同一の業績に対し複数（3名以内）の候補者がある場合、様式1枚目はすべての候補者について作成し、2枚目は複数の候補者の共通資料として1部のみ作成すること。
2. 「推薦順位」欄については、各省庁、都道府県の担当部署で記入すること。
3. 「業績名」欄に記載する業績名については、文部科学大臣表彰に相応しい表現かつ当該創意工夫の内容を的確に表すものとする。また、語尾は「考案」、「改良」、「改善」の3種から選択することとし、文字数は語尾を含めて合計23文字以内とすること。なお、原則として業績名に句読点等（（ ）「 」・、。）は使用しないこと。
4. 候補者氏名は戸籍簿等に記載の字画の通りに正しく楷書で記載し、ふりがな（ひらがな）を付すこと。（例： 渡辺の場合、戸籍簿に“渡邊”とあれば「渡邊」と記載。）
5. 候補者の年齢は、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。
6. 「候補者の現住所」欄は、郵便物の不着、転送の煩を招くことのないよう正確に記載すること。丁目、番地、号等についてはハイフン（-）でつなげて記載すること。（例： 1丁目2番地3号の場合は1-2-3のように記載。）
7. 「最終学歴」欄について、学校名称が制度改正等で変わった場合は、現在名をカッコ書きで付記すること。（例： 京都府立一中（洛北高校）のように記載。）
8. 「候補者の人格」欄については、候補者の人格信用状況等を簡潔に記載すること。
9. 「候補者勤務先名称」欄について、株式会社は（株）と記載すること。（例： ○○○（株）○○○工場）
10. 「現在の勤務上の地位」欄については、例えば『○○○工場（株）製造課○○職長』のように具体的に記載すること。なお、候補者の勤務上の地位が一般的な職名でない場合には、カッコ書きで「～相当」として一般的な職名（係長、職長、班長、係員等）で示すこと。
11. 「入社（就業）年月」欄について、カッコ書きで表彰年度の4月現在までの通算業務年数を記載すること。
12. 「事業内容」欄については、候補者の勤務する工場、事業場等の事業内容を具体的に、かつ簡単に記載すること。
13. 「現在までの受賞の有無」欄については、現在までに知事あるいは直轄上司、その他から表彰された経歴があるとき、その主なものについて受賞年月日、表彰名称等を記載すること。
14. 「創意工夫の内容」欄については、考案点、改良点を具体的に、分かりやすく、かつ枠内に納まるように記載すること。
15. 「創意工夫の実績」欄については、当該創意工夫によって、その職場の能率の向上、製品の増大、コストの引き下げ、未利用資源の活用、資材の節約、災害防止等に役立った実績をなるべく数値をあげて記載すること。
16. 業績の説明に役立つ写真、図表等があれば添付してもよい。
17. 別添調査書用紙が不足する場合は各自で複写するか、別途様式を作成して使用すること。

創意工夫功労者賞 候補者一覽表

推薦都道府県名

推薦省庁名 ()

推薦順位	ふりがな 氏 名	年齢	候補者の現住所	候補者の勤務先・地位	業 績	名

(一覽作成上の注意)

- ・「推薦順位」欄は、必ず各推薦機関（各省庁および各都道府県）においてとりまとめの上、記入すること。
- ・「推薦順位」欄は、同一業績の者（3名まで）については、必ず同じ順位とすること。その際、その次の者の順位は、人数分飛ばした順位から数えること。
(例えば、1位の者が3名いる場合、その次の者は4位となる。)
- ・「氏名」欄について、氏名等の字体は必ず確認して記載するとともに、必ずふりがなを付すこと。(受賞に至った際に、賞状・受賞者名簿等の伝達に支障が生ずるため。)
- ・「年齢」欄には、表彰年度の4月1日現在の満年齢を記載すること。
- ・業績名の語尾は、「考案」、「改良」、「改善」の3種から選択し、語尾を含めて23文字以内とすること。
- ・本表は、候補者10名で1枚を作成すること。

(5) 文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞

表彰対象

1. 文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞は、科学技術振興の基盤の拡大に重要な青少年の創意工夫活動を活発化するため、小・中学生の創意工夫の育成に顕著な成果をあげた学校を表彰する。
2. 文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞は、以下の要件に該当する学校を対象とする。
小・中学生の科学技術に関する創意工夫の育成に顕著な成果を収めた学校

〈解説〉

1. 科学技術振興の基盤を更に拡大していくには、青少年の創意工夫活動の活発化が必要であり、そのためには学校教育による児童、生徒の創意工夫の育成が重要である。
児童、生徒の創意工夫活動による作品については、毎年、社団法人発明協会等が主体となり、全国的な組織で展覧会を開き、児童、生徒の創意工夫の高揚が図られているが、このような成果は、学校における創意工夫の育成の努力によるところが極めて大きいと考えられる。本表彰制度は、こうした観点から、児童、生徒の創意工夫の育成を行って成果をあげている学校を対象として、昭和34年から行っているものである。
2. 表彰対象について
 - * 1 「創意工夫の育成に顕著な成果を挙げた学校」とは・単なる理科教育等とは異なり、例えば、創意工夫室や創意工夫サークル等を設け、創意工夫指導担当職員を指名し、児童、生徒の創意工夫活動を実施しているものであり、活動成果の公表、展覧会等への出品等によって成果をあげている学校を指す。
 - * 2 表彰対象については、小学校および中学校とし、公立、私立は問わない。
 - * 3 3年以内における同一校の重複した表彰は行わない。

○申請に必要な書類等

文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞への申請に際しては、以下の書類を指定の様式に従い作成のうえ提出すること。

- (1) 候補校調査書（1部）
様式16（62～63頁）に従い作成すること。
- (2) 候補校一覧表（3部）
様式17（64頁）に従い作成すること。

◎本様式中、破線枠については書類作成上の注意事項であり、実際の申請資料には記載しないこと。

- ・本資料に不実または虚偽の記載、もしくは様式に対し適正な記載がされていない等の推薦案件については、審査の対象から除外する。
- ・本資料は、A4縦用紙にワープロ書き（フォントサイズ 10.5pt 以上）で作成すること。両面印刷不可。

様式 16

創意工夫育成功労学校賞 候補校調査書

推薦都道府県名（ ）

1. 学校の概要

ふりがな 学校名	都府 道県	市立 郡	町立	小学校 中学校
ふりがな 学校長名				
所在地				
創立年月日	明・大・昭	年	月	日
学級数	生徒数		名	
	教職員数		名	

2. 創意工夫活動の概要

創意工夫活動に参加している生徒数				名
創意工夫指導担当教職員数				名
創意工夫指導担当教職員氏名				
この件に関する連絡担当教員氏名		TEL		

創意工夫活動の概要（ポイントをつかんで分かり易く記入すること。）

3. 創意工夫活動の実績

展覧会等における出品と入賞実績（最近3ヶ年度）						
展覧会等の名称	主催者		年度	年度	年度	備考
		出品点数				
		入賞点数				
		入賞の内容				
		出品点数				
		入賞点数				
		入賞の内容				
		出品点数				
		入賞点数				
		入賞の内容				
		出品点数				
		入賞点数				
		入賞の内容				
		出品点数				
		入賞点数				
		入賞の内容				
その他特記すべき事項						

（調査書記入上の注意）

1. 項目2は簡潔にまとめ、項目1と併せてA4用紙1ページに収めること。
2. 学校名、所在地等正確に記載すること。学校名は、例えば〇〇県〇〇郡〇〇町立〇〇小学校のように記載すること。
3. 創意工夫活動とは、単なる理科教育ではなく、例えば、創意工夫室や発明サークルなどを設け、創意工夫指導職員を任命して行う活動を指す。
4. 創意工夫活動の内容を説明するにあたって、必要な写真、アルバム、図表などがある場合は、コピーを添付すること。なお、提出された書類については返却しない。
5. 「3. 展覧会等における出品と入賞実績」は、最近3年間に出品・受賞したすべての展覧会等について、その展覧会ごと年度別に出品点数と入賞点数を記載し、入賞の内容欄には、受賞した賞の名称（恩賜賞、〇〇県知事賞等）をすべて正確に記載すること。また、展覧会等の内容が分かる開催要項等のコピーを添付すること。

創意工夫育成功労学校賞 候補校一覧表

		推薦都道府県名 ()			
	ふりがな 学 校 名	所 在 地	ふりがな 学 校 長 名	ふりがな 連絡担当教職員氏名	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

3. 科学技術分野の文部科学大臣表彰の事務の流れ

文部科学大臣表彰科学技術賞、文部科学大臣表彰若手科学者賞は、年1回、例年4月初旬に受賞者を発表し、科学技術週間（4月18日（発明の日）を含む1週間）中に表彰する予定である。また、文部科学大臣表彰創意工夫功労者賞ならびに文部科学大臣表彰創意工夫育成功労学校賞は、同じく科学技術週間中に推薦機関（各省庁、都道府県）において表彰式を行う予定である。その関連事務スケジュールは以下のとおりである。

- ① 文部科学大臣表彰各賞の推薦依頼（表彰年度の前年（以下「前年」と略す。）の5月頃）
- ② 書類選考及びヒアリング（前年の9月～12月頃）
- ③ 科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会における審査・選考（1月～3月頃）
- ④ 受賞者の決定・表彰式（4月）

